

研究者名：日野 沙耶（美術教育センター 助手）
研究課題名：日本画の再検討－岩絵具の使用法に着目して
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：令和4年度～令和6年度

【研究概要】

日本画は一般的に明治時代に誕生した伝統系の近代絵画を指すが、今日では岩絵具や和紙といった材料により定義づけられる傾向がある。特に岩絵具は、近代以降開発が進み、日本画のアイデンティティとして画家に使用されてきた。しかしながら、材料に固執することで却って表現の可能性が狭められているのが現状である。本研究では、岩絵具の使用法が、近代以前、戦前一戦後期、現代絵画においてどのようになされているかを、文献や作品実見により調査する。現代では膨大な色数の岩絵具が多用されているが、近代以前においては岩絵具とは群青、緑青の2つを指す語であり、この2つが他の描画材と併用されていた。戦前一戦後期は、同時代的表現を目指し、岩絵具の物質感を利用する表現がなされるようになった。また、現代においては、日本画家以外が岩絵具を使用する例がある。これらの時期の岩絵具の使用法を詳細に読み解き、手掛かりとすることで、岩絵具の表現の限界や絵画表現における活用の可能性を考察し、今日の日本画を再検討することを目指す。